

会議名称：平成27年度1月期古賀市社会教育委員の会議

日時：平成28年1月19日（火） 19時～21時

場所：リーパスプラザ研修棟103

主な議題：①「第3回古賀市生涯学習笑顔のつどい」について

②『家庭』と『地域』のそれぞれの課題について

傍聴者数：傍聴者なし

出席者：松本議長、加藤委員、平島委員、船越委員、角森委員、

國友委員、佐々木委員、松末委員、横大路委員

（以上委員9名）

安部生涯学習推進課長、野田、幸野

欠席者：安武委員

事務局：生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：①レジュメ

②「第3回古賀市生涯学習笑顔のつどい」全体構成について（案）

会議内容：以下のとおり

松本議長：

みなさん、こんばんは。

お手元に1月15日付けの読売新聞の記事をお配りしています。『図書館で地域の絆深める』ということで、図書館の一般開放の記事が載っています。昨年も西日本新聞で紹介されたのですが、改めて載っておりましたので、ご紹介します。

写真は『小野小の図書館を利用する住民たち』ということですが、小野校区は広く、地域の方にとっては市立図書館に来るといことは大変なので、地域の方にとっては非常にいい図書館開放なのではないかと私は思います。

長谷川教育長と先日話をしましたが、いろいろなプランを持っておられるようで、我々社会教育委員もそれに負けずにいろいろな提言・意見を出していきたいと思います。

それでは、1月期の古賀市社会教育委員の会議を始めます。

今日は協議事項が大きく2つあり、「第3回古賀市生涯学習笑顔のつどいについて」2、30分程度大まかな計画を出し合まして、その後は前回の会議で、来年の2月の提言に向けて『家庭の教育力』と『地域の教育力』についてグループに分かれて課題と現状を話し合っていこうと決定しましたので、『家庭』と『地域』のそれぞれの課題についてグループ協議を、50分程度行っていききたいと思います。よろしくお願いします。

それでは『協議事項(1)「第3回古賀市生涯学習笑顔のつどい」について』、全体構成（案）について事務局からお願いします。

事務局：

それでは「第3回古賀市生涯学習笑顔のつどい」全体構成（案）について説明いたします。

第2回のつどい終了後の6月期の会議で出た反省点を踏まえて、全体の流れについて作成しております。

「時間は変更せず、10時から12時まで」、「オープニング・エンディング映像を作成し、古賀のよさを再発見してもらう。なお、写真は社会教育関係団体から事前に募集する」、「『アトラクション』は会場が一体となるような仕掛けを行う」、「『実践報告』の団体を増やす。団体は、校区コミュニティ及び福祉関係団体を1団体ずつ入れる」、「『助言者まとめ』を15分くらいに延ばす」、「ロビーに活動報告を掲示する。ポスターセッション等を行う」、「若い世代が参加するよう、ア

トラクション・発表者に若者の団体を入れる」ということでした。

それらの意見を踏まえまして、時間配分ということで当日の内容を作成しております。時間を分単位で記載していますが、左側が前回の予定時間、右側が今回提案する時間配分となっております。オープニング映像6分、アトラクションが2団体で昨年同様8分ずつ、あいさつが実際は短くなると思いますが、予定と市長、議長それぞれで5分ずつ。実践報告を3団体にし、それぞれの団体紹介と活動の主なものの説明で10分の3団体、意見交換の20分間で参加者が聞きたいと思われる内容を助言者とのやり取りによって、さらに理解を深めてもらいます。助言者まとめは前回12分としていましたが15分。意見交換は30分まで延ばすことが可能なのではないかと思います。終わりの言葉3分、エンディング映像が4分ということで、今の案での合計時間は1時間45分です。大ホールと違って多目的ホールは机等の移動時間があまりかからないかと思います。

アトラクションに関してですが、8月7日の「笑顔のつどい」の前日に、今のところの予定ではありますが、オープニングイベントの一環として生涯学習センターのフォーラムにてサロンコンサートを予定しています。サロンコンサートは毎回参加者が多く、つどいの参加者を増やすために、これはあくまで案ではありますが、サロンコンサートを6日、7日と2日連続で行い、7日のつどいではアトラクションとして、オープニング映像の後で1団体、実践報告が終わった後で来場者が歌うことで一緒に参加することができるような合唱や演奏を1団体に行ってもらい、新規の参加者を開拓する。また、アトラクションを前半後半の2つに分けることで、昨年度のようにアトラクションが終了後、実践報告前の来場者の退場を防ぐ、という点があるかと思います。

また、2つ目の案としましては、「生涯学習笑顔のつどい」により、今までにスポットが当たっていない団体にスポットをあて、いろいろな方に活動の紹介をすることで、「自分にもこういった活動ができるのではないか」、「マンネリ化している団体の活動に新しい息を吹き込む」など個人や団体に意欲を与えることができるものを行う。例えば昨年度の『アコースティックギターバンドレディ』ではつどい出演後、地域の夏祭りや様々なイベントに呼ばれるなどの交流が生まれ、今年度の『コールドルチェコーラスグループ』では、つどい終了後、指導されている先生から「ドルチェの皆さんも大変意欲的に取り組んでくださり、同じ曲を2月に発表した時よりも数段上手くなられ、手応えを感じられた舞台となりました。」との御礼の言葉をいただくなど、さまざまな効果を生み出しています。こういったことも含めまして、「第3回生涯学習笑顔のつどい」の出演団体について検討していただければと思います。

資料2ページ目には、第2回のつどいに向けて昨年2月の会議で前社会教育委員に出していただいた団体で、今年度出演いただいた、『Doubled』『コールドルチェコーラスグループ』『古賀西校区コミュニティ協議会』『谷山区かたりたい』を除いたもの、そして第2回のつどい終了後、社会教育委員の会議で皆さんから出していただいた意見をそれぞれ上げております。これらを参考にさせていただいて、先ほどの時間配分や発表の仕方、団体の候補など次回の会議にて詳しく協議していただきたいと思います。

松本議長：

事務局からの提案でしたが、1つ目はアトラクション2団体を続けて行っていました、アトラクションが終わったらさっと帰ってしまう方もいらっしゃいましたので、アトラクションを最初と終わりの言葉の前にそれぞれ分けたらどうかという意見が出ております。いかがでしょうか。

平島委員：

帰られたのは子どもの団体だったので、そういう団体を選ばなければそういったことはないのかなと思います。

加藤委員：

というよりもやはり、参加団体にこの『笑顔のつどい』の趣旨を理解していただいて、「最後まで参加してください」と言うべきでないかなと思います。

松本議長：

その他に何か意見はありませんか。前にまとめてしまうか、最後に盛り上げて終わるか。

松末委員：

発表団体によるかも知れませんが。構成次第だと思います。

加藤委員：

準備のことを考えたらまとめたほうがやりやすいと思いますが。

松末委員：

次回行う多目的ホールが、物の出し入れがしやすいということであれば前半に準備がいるものをもってくればよいと思います。団体を決めてから考えたほうがよいかなと思います。この案自体はよいと思いますし、終わりの言葉の前に持ってくるとスッキリすると思います。

加藤委員：

終わりの言葉前に持ってくるようであれば、みんなで一緒に歌うとか、会場がひとつになるものをもってくると、「来てよかったね」といった雰囲気になるのではないかなと思います。

松末委員：

雅楽とかそういったものであれば、準備に時間がかかるからそれを前に持ってきて、とか、火消し節であれば前半で聞いて後半にみんなで歌う、ということもできますよね。

松本議長：

大きな違いはないんだけど、例年通りやるほうがいいのか、マンネリ化を防ぐために改善していくのか、どの団体に行ってもらうか、内容が決まってからでないといけない、ということもあるようですので、そのあたりは保留にして詳しく決まってから全体構成を考えていきたいと思います。

事務局：

1つ目の提案で、サロンコンサートと合同で行うか、というお話をしましたが、そちらについてはいかがでしょうか。火消し節や雅楽の話が出ていたので、みなさんの中にコンサートと合同ということは想定されていなくて、この社会教育委員で団体を選ぶ、ということかなと思いましたが。

委員一同：

サロンコンサートとは合同で行わず、活動団体から選定します。

松本議長：

それでは実践報告は第1回と同様に3団体、アトラクションは2団体ということで、前回のつどい終了後に皆さんから出していただいた意見、それから前年の社会教育委員の会議で出た意見が一覧になっていますが、その他に「ぜひこの団体に」というところがありましたらお教えください。

まず、アトラクションで何かありませんか。

船越委員：

古賀市内に『古賀キッズブラス』がありまして、小学生のブラスバンドの団体があるようです。人数はそんなに多くないようですが。

松本議長：

小野小学校ですよ。昔は人数が多かったようですが。

船越委員：

昔はマーチングバンドをやっておられたようですよ。

平島委員：

昨年は文化祭に出演してもらいました。

加藤委員：

昔指導しておられた先生が人事で市外の小学校に異動になったようです。

平島委員：

指導者が交代されています。

船越委員：

いろいろな市内の行事に出ておられますか。

平島委員：

いい演奏をするんですがメンバーが少ないので、今は機会が少ないかと思います。

船越委員：

そういった団体に出てもらえるとうれしいですね。

松本議長：

その他に団体はありますか。

角森委員：

青柳雅楽はどんな団体ですか。子どももいますか。

事務局：

昨年度の話では、小さい子もいるということでした。

加藤委員：

COSMOXには今も活動している団体はいますか。

平島委員：

いっぱいいらっしゃいますよ。

松本議長：

古賀竟成館高校の生徒もいますしね。

松末委員：

上手な生徒たちは上手ですもんね。

事務局：

多目的ホールですので、大ホールほど舞台が広くないので、大人数になると厳しいと思います。実際の広さがわからないのでなんとも言えませんが、現在の大会議室のステージより一回り大きくなる程度かと思います。

平島委員：

大人数は難しいと思います。従来のホールの6分の1から7分の1の広さだと思った方がいいと思います。

加藤委員：

一段高くなるようなステージはあるんですよ。

事務局：

出し入れ可能なステージがあります。

松本議長：

今回の会議で団体を決定しなくてもいいんですよ。

事務局：

次回決定で大丈夫です。

松本議長：

では今回の資料を参考にして、次回までにアトラクション2団体、実践報告2団体の案を考えてくることにしましょうか。

松末委員：

『笑いヨガ』は古賀の団体ではないですね。

事務局：

個人がされていて、団体ではないということで今年度のつどいの出演対象からはずれました。

松本議長：

では『笑いヨガ』は対象からはずしてください。

事務局：

『火消し節』は、去年は笑顔のつどいのある5月は操法大会の練習で忙しいということと、消防団の分団長が4月で交代になるため、出演を依頼するのであれば早めに声かけをしなければならなかったとのことで見送りました。

松末委員：

見てみたいです。

角森委員：

もう見られなくなるんですか。

事務局：

1月の出初め式で行う練習を11月から始めるので、8月7日時点の分団長は平成28年4月からの任期で練習前ですので、第3回のつどいで出演依頼をするようならば、今現在の分団長に出演依頼を行うこととなります。

松本議長：

それではアトラクションと実践報告の団体については次回の会議で決定したいと思いますので、それまでに皆さんの情報源と2枚目の資料を参考に、各自2つずつ推薦をお願いします。それを出し合って意見が多いところを基本として決定していきたいと思います。笑顔のつどいについてはこれで終わりたいと思います。

それでは、「協議事項(2)『家庭』と『地域』のそれぞれの課題について」、前回の会議で家庭の教育力と地域の教育力の現状と課題を考えるにあたり、地域班と家庭班の2グループに分けるということになりました。班分けを事務局からお願いします。

事務局：

前回の会議の内容を踏まえ、事務局と議長とで班分けをいたしました。

『地域の教育力向上チーム』は、松本議長、平島委員、國友委員、松末委員、安武委員。『家庭の教育力向上チーム』は、加藤委員、船越委員、角森委員、佐々木委員、横大路委員、とさせていただきます。

前回の会議で、もう少し課題について洗い出したほうがいいのかという話もありましたので、実際班に分かれて課題を出し合っていて提言したい内容であるとか、次回に向けてこういった内容をやっていこう、というところまで話をさせていただきたいと思います。

松本議長：

私のほうで、家庭班・地域班それぞれのこれからの審議の方向性を作成しております。

前回までの会議で、「1、子どもの現状と課題」についての意見を出していただきましたので、本日からそれを分析していただいて、その分析の中から今後子どもたちの居場所作りで充実・改善させる方法を考えていただきたいと思います。

今日は「2、分析する視点」ということで、家庭班では(1)で家庭での子どもの姿を起こしていただいて、(2)今学校とどのような連携をして子どもを育てていっているのか、(3)地域と連携しているか、(4)地域の中でも特に子どもとかかわっている育成会やPTA活動と連携して子どもたちの力をつけていっているのか、(5)(6)(7)は2つの班の共通の課題ですが、教育行政としてどんな支援をしているか、もっとどんな支援をすればいいか、障がい児の居場所があるかどうか、子どもの貧困化についてどのような課題や改善点があるのか、最後にはやはり目的をしっかりとっておかなくてはなりませんので、めざす子ども像・家庭像、地域では地域像ですね。「こういう子どもたちに育てて欲しい」というために、地域ではこういった政策が必要だ、家庭ではこんな家庭をつくらなければならぬ、といったものですね。

地域でいえば子どもの姿、前回までに出していただいた意見をまとめてみると、(1)今の子どもたちの遊びは集団化から個別化へ、屋外化から屋内化へ、創造性から依存性へ、そういった傾向があるのではないかとということでした。それを打破するためには、(2)どんな居場所を作っていけばいいのか、(3)実際、居場所はあるんだけど、体験のプログラムの量や質はどうか、学習の保障などですね。(4)地域の居場所で実際に指導される地域の皆さんの育成がどのようになっているのか、(5)家庭と同じように育成会の参加率、育成会・PTA活動での姿。(6)教育行政の支援、(7)障がい児の居場所、貧困、(8)目指す地域像、こういった視点から分析していただいて、提言する方向性が出てくるのではないかと思いますので、参考にさせていただきたいと思いますし、この通りにしなくても大丈夫です。

そして、課題改善のための方向性が明らかになれば、それをどのような調査をしていけばいいかということで、アンケートや、実際の現場に見学に行って子どもたちや指導者の皆さんに調査していきたいと思います。調査して行く中で、行政のほうで持っているようなデータがあれば出していただく、また、役割分担として誰がどの部分を受け持つのか、そういったことも決めていきたいと思います。この1、2月の2ヶ月間で進めて、3月は地域情報交流会、4月に必要であればアンケートを作成して、5月にアンケートを開始していきたいと思います

事務局：

班の中にはそれぞれ事務局が入りまして、何か疑問点や事務局で調査して欲しいことがありましたら出していただきたいと思います。それぞれの班の司会は松本議長と加藤委員にお願いしたいと思いますが、班の中からそれぞれ記録者を1名ずつ出していただきたいと思います。

松本議長：

グループ討議の中である程度方向性を付けるために図や表、分析図を使ったほうがいい、ということもあるかもしれませんが、事務局に模造紙や付箋紙、マジックを用意してもらっていますので、自由に利用してください。

それではお願いします。

(「地域班」、「家庭班」でそれぞれ協議)

松本議長：

皆さんお疲れ様でした。少し時間が足りませんでしたが、また次回の会議へ持ち越したいと思います。

それでは報告事項に入りたいと思います。事務局お願いします。

(事務局より、「3、報告事項(1)教育委員との情報交換会について」、「(2)地域情報交流会について」説明)

松本議長：

それでは「4、その他」お願いします。

(「(1)各委員から」、加藤委員、松末委員より平成28年2月20日上映の『みんなの学校』の案内)

(事務局より、「(2)働く人の身体の歪とウォーキング講座」、「古賀を歩こう！2016」、「(3)平成27年度古賀市青少年育成市民会議『少年・少女の主張』作文表彰式及び作文発表の開催について」説明)

松本議長：

他にないようでしたら以上で終わりたいと思います。

それでは終わりの言葉を加藤委員、お願いします。

加藤委員：

来月は「笑顔のつどい」のアトラクションと実践報告の推薦を2団体ずつ考えてきてください。その前には教育委員との交流会もありますので、よろしくお願いします。

お疲れ様でした。